巻頭特集

映画『サルビア』の アナザーストーリー

太田市のPR映画制作に尽力した人々の熱意

太田市のシティプロモーションの一環として、2019年10月に撮影された短編映画『サルビア』。男子中学生とブラジル人少女の交流を通して、外国人との共生を幻想的に描いた映画制作に携わった、小田浩之監督と、学生たちの思いを取材した。

映画『サルビア』のワンシーン。タイトルバックに使われた文字は、GKAの小板橋さんがデザインした

日本人と外国人の子どもの多文化共生がテーマ

太田市に暮らす男子中学生・ヨシが、秘密基地で謎の外国人の少女・サルビアと出会い、絆を深めていくというストーリーの映画『サルビア』。太田市のシティプロモーションの一環として、地元の魅力を発信するために作られた28分間の短編映画だ。

映画の脚本と監督を務めたのは、2018年にヒューストン国際映画祭で短編映画最高賞を受賞した、ぐんま国際アカデミー（以下、GKA）高等部社会科教諭の小田浩之さんである。現在は、同校高等部の総合学習で映画の授業を担当する一方、慶応義塾大学大学院で映画を通した教育の研究に取り組んでいる。

同映画が撮影されたのは、2019年10月。その数カ月前に太田市広報課から、小田監督のもとに映画制作への協力を打診されたのが始まりだ。

「太田市をモチーフにした映画を制作してほしいと依頼された時、初めに考えたのは、観光地や名産品を紹介するだけの作品にしたくないという思いでした」と小田監督は振り返る。

太田市を舞台にした映画を企画するうえで、小田監督がテーマに思い浮かべたのは、多くの外国人が暮らす太田市の特色を生かした多文化共生だ。日本人の子どもと外国人の子どもの冒険と成長を通し、観客にその答えを問いかける。

わずか数カ月という短い準備期間で、小田監督は脚本づくりとキャスト選びを同時進行。当初は物語の鍵を握る外国人に少年を想定していたが、イメージに合う子どもたちがなかなか見つからなかった。

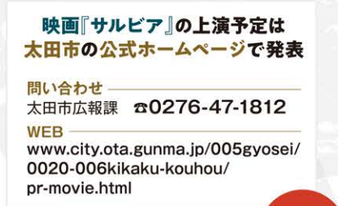
そんな頃、おお た芸術学校の講師から紹介されたのが、同校の附属劇団「松ぼっくり」に所属する当時中学2年生だった若林尚紀さんだ。多くの舞台経験で培った演技力と初々しい姿にインスピレーションを感じた小田監督は、主役に若林さんを抜擢。急遽、相手役となる外国人の子どもは、少女に変更された。

ブラジル人という設定の少女役を探していた小田監督にGKA中等部の教諭から紹介されたのが、スイスにルーツを持つシュナイダー・カミユさんだ。彫りの深い顔立ちと透明感のある立ち振る舞いは、まさしく求めていた少女像にぴったりだと直観。自らスカウトに乗り出した。

ようやく主要キャストが決まり、小田監督による演技指導もスタート。太田市を全国に発信し、郷土愛を広める機会にしたいという重要なミッションは、二人の中学生に託されたのである。

夜の屋上で撮影したシーンは、シュナイダーさんが最も気に入っている

地元のソウルフード新田パンを2人で食べるシーンがほほえましい


脚本・監督
ぐんま国際アカデミー教諭
小田浩之さん

タイトルデザイン
メイキングディレクター
小板橋瑛斗さん

サルビア役
シュナイダー・カミユさん

ヨシ役
若林尚紀さん

フリモARで主演の二人からメッセージが流れます

1年遅れで開催される上演会に期待が高まる

小学校3年生の頃から、おお た芸術学校の演劇科に所属し、数々の舞台経験を持つ若林さん。「舞台と映画では発声方法や表情など、求められる演技が異なるのだと知りました」と話す。映像のなかで自分がどう映るのかを意識しながら演じた。

演技初挑戦のシュナイダーさんは、「全てが初めての経験で緊張しました」と記憶をたどる。しかし、自然のままで良いという小田監督の言葉に励まされ、共生について深く考えながらサルビアを演じ切った。

もちろん映画制作を支えたのは、主演の二人だけではない。ヨシの友人役を演じた少年たちや大勢の市民エキストラ、撮影スタッフなど、一人ひとりの熱い思いが30分足らずの作品に凝縮されている。

メイキング映像の編集やロゴの制作、画面構成を絵で示す絵コンテなど、重要なポジションを任されたのが、若林さんは、一生の宝物だ。

残念ながら、新型コロナウイルスの余波を受け、昨年春に公開させる予定だった本作は、いまだに市民の前では上映されていない。このような状況において、関係者のもとに届いたのが、米国で開催された第37回シカゴ国際児童映画祭の短編部門で入選したという明るい知らせだ。

「映画を通してたくさんの人と縁ができ、貴重な経験をさせていただきました」とシュナイダーさん。「子どもたちの演技が絶賛され、今回の受賞につながったことに、感謝の思いでいっぱいです」と小田監督は声を弾ませる。この感動を多くの市民と共有し、それぞれの心のなかで映画を完成させてほしいとほほ笑んだ。

この春、1年遅れの映画上映会に向けて、準備が進んでいる。地元の美しい風景と共に、映し出される人々の姿がスクリーンで見られる日を心待ちにしたい。

東京からプロのスタッフを招き、本格的に行われた映画の撮影

太田市出身の俳優 岡田浩暉さんからのメッセージ

自分にも太田市のために出来ることがあるならばとお受け致しました。皆さんそうかと思いますが、故郷への想いは純粋です。そして、とても素敵な作品に参加させて頂き、太田市の未来への理想の高さも感じました。若い頃に耕されるほど、心の田畑に咲く花は美しいと思います。有難うございました。

映画『サルビア』の主な口ケ地

旧金山図書館
ヨシとサルビアが出会った秘密基地の舞台は、大正時代の建物

太田小学校
学校のシーンでは地元の子どもたちが大勢エキストラとして出演

春日神社
岡田さんと若林さんの演じる親子のふれあいが心を揺さぶる

映画『サルビア』の上演予定は太田市の公式ホームページで発表

問い合わせ
太田市広報課　☎0276-47-1812

WEB
www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-006kikaku-kouhou/pr-movie.html

フリモARアプリをダウンロード
で「フリモAR」を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc. の商標です。App Storeは Apple Inc. のサービスマークです
※Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です

文／佐藤京子　写真／篠原亨　写真提供／小田浩之、株式会社サーブプロモーション、太田市広報課　デザイン／神尾方子